



▲お兄さんとじゃんけんしたい子で行列が

子どもたちと遊ぶ
若い男性が
求められていた
「みんなであ
そ・ほ」の当日、開
会前に全体の流れや
役割の説明を館長か
ら受けました。子ど

**創業50年を機に
若手社員の力で地域貢献**

「事業を半世紀に渡り続けられたのも地域あつてこそ」。株式会社国際技建では感謝の気持ちから今回の地域・社会貢献活動のコンサルティング事業に応募しました。当初の具体的な地域貢献のイメージは、清掃などのボランティア活動でした。国際技建ではコンサルタントと聞き取りや打ち合わせを重ね、具体的な貢献の対象者を東区の子どもたちに絞りました。国際技建は複数の活動提案から、北栄児童会館でのイベントに若手社員を当日の運営ボランティアスタッフとして派遣するという地域・社会貢献活動を選択しました。

お兄さん社員が 児童会館で子ども達と遊ぶ、 身近な地域での貢献活動

鉄の圧接技術を持つ国際技建は、創業50年を機に札幌市東区で地域貢献を始めました。場を提供したのは札幌市北栄児童会館。平成27年3月6日（金）の行事「みんなであ・そ・ほ」では、若手社員が当日の運営ボランティアとして催しに参加。この日のために相談やお試し体験を重ね、笑顔で地域貢献を行いました。

もたちが集まり始め準備が整うと、館長が元気に司会。約30名を前に3名のお兄さんがニッケネームで紹介され、仲間になりました。

この日は名刺じゃんけんやリレーなど、体育館全面を使った3種の遊びで構成。相手から得た名刺の数を競う遊びでは、お兄さんの前に子どもたちの列ができました。「若い男性が遊びに入ると普段と違う活気があります」と話す館長。「参加した児童は普段より元気いっぱい大きな声で遊んでいる姿が見られ、とても喜んでいました」。

国際技建の皆さんにも気づきがありました。「普段子どもと触れ合う機会がなく、楽しかったです！」（ハゲりんこと林さん談）、「おとなしそうな子が勝負に熱くて驚きました！子どもの個性や意外性が見えました」（カムカムこと加向さん）、「活動を同僚から聞いて実際参加して楽しかったです」（ローラこと片桐さん）。

無理のない頻度で 楽しく持続する地域貢献を

充分時間をかけて双方の信頼関係を築いたことや、国際技建と社員さんたちが北栄児童会館の近くに常にいることが、今回の協働にうまく作用したようです。「児童会館では日常のお手伝いに企業の地域貢献で参加するのも、大きなイベントの運営に人を出してくださるのもありがたいです。館の行事を支えてくだされば、子どもたちも喜びます」と館長。

国際技建からは「独身社員が意外と子どもと遊べるのがわかりました。4月以降は、新入社員に北栄児童会館での活動を体験する研修も考えたいです」と活動を続ける発案がありました。国際技建では、冬場を中心に児童会館での地域・社会貢献活動をこれからも進めることにしています。

成功の秘訣

会社の近くで
できることから
取り組みを開始

▼「左からハゲりん・カムカム・ローラです！」拍手と歓声が上がりました



▲鬼たちが行く手を遮ります



▲身を屈めて子どもたちと挨拶

建設業

国際技建株式会社

札幌市東区北32条東5丁目

子育て支援 ■社員参加